

『ウェブ人間論』にインスパイアされながら……

2007年の新しい年が明けました。今号から、新春企画としてFDJ社大座談会『不動産業 Web2.0 / 2006年から2007年へ』（あなたの会社・Webサイトの最適化で経営と営業の最大効果を！）を、1月に発行の2月号まで連続掲載いたします。

今年により進化するであろう「不動産業の2.0バージョン」をフォーカス（照射）してみようという試みですが、その編集作業は、折から発売された『ウェブ人間論』にインスパイアされながらの原稿整理となつて、年末繁忙期にも係わらず案外楽しいものでした。

『ウェブ人間論』は、『ウェブ進化論』の著者・梅田望夫さんと芥川賞作家の平野啓一郎さんとの対談集（『ウェブ進化』によって、人間はどう変わるのか？ 異分野の二人が徹底討論！）としてまとめられたもので、今後の不動産業に係わってきそうな箇所については、FDJ社座談会の中でも紹介させて頂いておりますが、それでなぜそれほどまでに本書に拘ることになってしまったのでしょうか。以下に、平野さんの「はじめに」と梅田さんの「おわりに」から、インスパイアされた文章を紹介してみましよう。

平野さんの「はじめに」から

梅田氏と私とは、職業はもちろん、経歴からして、およそ懸け離れた世界でそれぞれにもの考えてきた人間であるが、にも拘わらず、これほどの長時間にわたって密度の濃い議論をすることが出来たのは、二人の間に、『ウェブ進化』によって、今、世の中はどう変わりつつあるのか、そして、人間そのものがどう変わりつつあるのかということへの素直な関心があったからである。これは言うまでもなく、同時代の多くの人を抱いている関心だろう。

日本におけるインターネット元年は、一九九五年と言われている。たった、十年ほど前のことである。しかし、私たちは最早、それ以前の生活を実感として想像し難くなっている。ネットがなかった頃、仕事はどうやって進んでいただろうか？ 友人とはどうやってつきあっていただろうか？ いや、そもそも自分自身は、どんなだっただろうか？ ウェブ2.0という新たな局面を迎え、更に驚くべき変化を遂げつつある状況の中で、私たち二人は、ともかくも話し合った。現在について、そして、未来について。

この対談が、ジャンルを超えた幅広い語らいのきっかけとなれば幸いであるし、また内容に関する多方面からの批判についても謙虚に受け止め、今後の糧としたい。

ここで顔をつきあわせて話し合ったのは、二人の人間に過ぎないが、対話はきつと、届けられたその先々で、ページを開いた誰しをも、その都度新たな参加者として歓迎するだろう。

梅田さんの「おわりに」から

ウェブ進化はまだ始まったばかりである。本当の大変化はこれから始まる。次の十年、二十年、いま以上に激しいスピードでウェブ進化は続いていき、私たち一人ひとりに変容を迫っていく。

平野さんと私は「大きな時代の変わり目にどう生きるか」に強い関心があり、現代を「大きな時代の変わり目」たらしめる最大の要因の一つがウェブ進化だという認識で一致していた。

しかし話をしていくうちに、二人の間にあるさまざまな違いも面白いように浮き彫りになっていった。私はいまビジネスとテクノロジーの世界に住み、平野さんは文学の世界に生きている。しかし、そういうわかりやすい違いよりももっと深いところでの人生観のようなものが、ウェブ進化を語ることで現れてきたのがとても興味深かった。

本書には、こうしたお互いの違いを発見しながら、少しずつ相手を理解していく過程が現れている。その結果本書は、ごつごつしたさまざまな刺激を含むものとなった。

しかしそれは、本書で取り上げたいいろいろなテーマについて、「俺はこう思う」「私は……」と誰もが思わず語りたくなる土台としてのオープン性を、期せずしてもたらしたのではないかと思う。